

紙版 ハコブネ×ブックス 春の増刊号

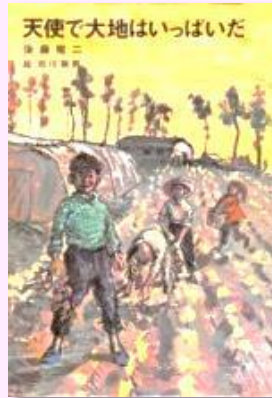
<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。

課題図書とは一九五五年にはじまり毎年開催されている青少年読書感想文全国コンクールで、部門ごとに選定された感想文を書くために課題とされた本のことです。ここに選ばれた本は、日本全国の多くの子どもたちに読まれることとなります。逆から言うと、かつて多くの子どもたちに読まれた本が課題図書なのです。あの時代に読まれ、子どもたちの心に少なからず影響を与えた児童文学を、今、記録を追いつながら振り返ることが出来ます。児童文学のアーカイブを受賞した作品よりも広く流通し、手に取られることもあり、結果的に課題図書が、その年の代表的児童文学になると言っても過言ではありません。海外作品やノンフィクションなど非常に多いジャンルもありますが、今年の課題というだけでは国内作品も、今年の課題というだけでは国内作品も、未来に遺される児童文学のアーカイブとなります。そんなスタンスで、是非、過去の課題図書も楽しんでください。

特集

課題図書を読み返す



天使で大地はいっぱいだ

第13回コンクール(1967年度) 小学校

作者 後藤健二
 出版社 講談社
 発行 1967年1月

SLAのwebサイトで過去の課題図書を見られます。

review



HP



新米の女の先生なんかにはなめられてはいけない。担任のキリコに徹底抗戦することをサブが誓ったのは小学六年生男子のプライドです。どうも調子が狂ってしまうのは、キリコがわりといい奴だからです。キリコはけちな文句をつけるようなことはしないし、本当に大切なことを生徒に伝えようとします。子どもたちと一緒に遊び、歌を歌い、野球にも夢中になる。最初は反抗しようと思っていたサブも、悔しいけれどキリコを好きにならずにはいられないのです。北海道の石狩平野を舞台に描かれる、農家の子どもたちと、新米先生のキリコが過ごす、おらかな日々。まっすぐに生きることの美しいスピリットと祈り。誰かのために心をつくし、自分のやることに誇りを持つ。先生の真摯な訴えに、生徒たちも応えていきます。大いに語られる理想は上滑りすることなく、輝ける時間がここに結ばれていきます。



とびだせバカラッチ隊

第29回コンクール(1983年度) 小学校高学年

作者 吉本直志郎
 出版社 ポプラ社
 発行 1983年2月
 ISBN 978-4591008065

review



わずかに二十七戸の集落にある小学校、栃谷分校。七人の男子生徒たちの関心は、春に山で生まれるかわいいうつろの子のこと。ところが山に入る、すでに木根森集落の子どもたちがフクロウを探している。こうしてブナの森に見つけた一羽のフクロウの子を巡って、栃谷と木根森の両軍に、はなはなしい戦争が勃発することになります。互いに奇襲作戦を執行する子どもたちには怪人も発生します。そこで様々な戦闘ルールが決められていきます。策をめぐらせ闘いながらも卑怯なことはせず、正々堂々と勝負する。取決めは必ず守る。そんな心意気が清々しい物語です。敵同士の恋愛模様も交えながら、そのハツピいな終戦を見守ることが出来る快作。「青葉学園物語」の著者による、ポスト戦争児童文学として平和な世界の子どもたちを描いた物語です。

ウラ面もアリマス



天の赤馬

第24回コンクール(1978年度) 小学校高学年

作者 斎藤隆介
 出版社 岩崎書店
 発行 1977年12月

review



江戸時代。イワナ釣りに夢中になり、禁令の高札を無視して川を遡ってしまった少年、源は、見たものは必ず死ぬと云う赤馬のいる赤馬山の山中にいました。ご禁制の場所にいることを役人に咎められ、逃げまわるうちに、この山に隠された秘密を知ってしまった源。ここは幕府に秘密で採掘を行っていた藩の隠し銀山だったのです。銀山で酷使され続ける労働者たちは蜂起を計画していました。簡単に鎮圧されないために、藩の圧政に苦しむ村の人々も一緒に立ち上がって欲しいと、同盟の橋渡しを頼まれた源。重い任務を託されて村に戻った源は、否応なくこの戦いに巻き込まれていきます。胸躍る冒険ではない、生き抜くための過酷で懸命な闘い。社会変革の嵐の中で、無邪気な少年だった源が勇気を振り絞り、自己変革を迎える、革命の季節がここに描きだされます。



走りぬけて、風

第37回コンクール(1991年度) 小学校高学年

作者 伊沢由美子
 出版社 講談社
 発行 1990年6月
 ISBN 978-4061956391

review



年に一度の商店街の福引で一等の高級サイクリング車を引き当てようと、これまでの小学校生活をデータ収集に費やしてきた六年生のユウ。その研究の成果で、自転車を引き当てることが出来るのか。そんな無邪気な挑戦の一方で、ここには沢山の終わりが近づいていました。老朽化のため建て替えられるアパートから、住民たちは出ていかななくてはなりません。ユウもこの街を離れて転校することになります。商店街の福引もこれが最期。そして、新しいスーパーが近くにできることで、この商店街自体の存続も難しいだろうと誰もが予想していました。心に寂しさと諦めを抱きながら、それでも福引を盛り上げようとする商店街の大人たちの姿。多くの人たちの想いと伴しながら、ユウに最新の福引を引く瞬間が迫ります。爽やかな哀感を与えてくれる秀逸な作品です。

紙版「ハコブネ×ブックス」冬の増刊号 2020年5月15日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、受賞。



@tomoostretch



ザリガニ同盟

第45回コンクール（1999年度）小学校高学年

作者 今村 肇子
出版社 学習研究社
発行 1998年5月
ISBN 978-4052009396

review



勝気のカッペイこと勝平と、タエシノブ、忍。小学五年生の少年、二人の夏は公園の池に大量発生したザリガニによって色めき立ちます。ライバルの小生たちと争奪戦を演じながら、ついに大ザリガニを釣り上げようとしたり、シラサギのような高齡のおじいさんと、ザリガニを見逃して欲しいと懇願されます。捕まえたザリガニを池に放った心意気に感じ入り、おじいさんは勝平と忍と親しく会話を交わすようになり、自分の余命が僅かなことを知る老人は、その最期の時間を少年たちと過ごし、心を通わせていきます。クールな文体による冴えた描写が印象的な作品です。その影が描かれることで際立つ、明るい夏の日差し。言葉にすることもありません、男子小学生もまた哀しみを心に秘めています。ザリガニ同盟の名の下に、盟友になった少年たち。人生の哀しみと喜びを知る、そんな季節の物語です。



宇宙のみなしご

第41回コンクール（1995年度）中学校

作者 森絵部
出版社 講談社
発行 1994年11月
ISBN 978-4062073349

review



とくに理由のない登校拒否で二週間、中学校に行かなかった陽子。ただ面倒くさく、退屈な学校が嫌だっただけなので、登校することだってまた簡単です。クラスのどのグループにも属さない陽子の存在など、誰も気にしないだろうと彼女が思っています。それが、そしてもうかけている同級生たちもいたのです。陽子は弟のリンと二人で余所の家の屋根に勝手に登ることで退屈を紛らわし、ストレスを発散してました。その秘密の行為を同級生たちに知られ、懇願されて一緒に屋根に登ることになるのですが、ここで思わぬトラブルが発生します。悩める同級生たちの思いに触れ、マイペースな陽子もまた、自分たち子どもがこの世界と渡りあっていく方法について思いを馳せることになりました。孤独の重さや、閉塞感、生きていくことの倦怠を、子どもなりの真摯さで軽やかに表現する清新な感覚。YA作品の新時代を切り開いた著者の快作です。



明日につづくリズム

第56回コンクール（2010年度）中学校

作者 八束 澄子
出版社 ポプラ社
発行 2009年8月
ISBN 978-4591110850

review



広島県因島。尾道市に編入され、因島市の名称が無くなる市町村統合を来春に控えて、島に暮らす中学三年生の千波は進路に悩んでいます。島を出て本土の高校に通うかどうか。家の経済状態を考えると難しいけれど、広い世界に行ってみたくては灯っています。まだ自分の将来を見通せない中学生には難しい選択です。進路のことだけでなく、両親が施設から譲り受けた弟の大地にも千波は心を乱されています。聞き分けのない弟に、優しく大らかに出来ない自分を持って余している千波。それでも、少しずつ大地との距離を縮めていく千波の心の動きが、つぶさに描かれていきます。活き活きとした方言で交わされる会話や、眼に浮かんでくる美しい島の情景、ごく平凡な中学生である千波の心情など、あたりまえでいて、大切な愛おしいものがつなぎ留められています。



レネット 金色の林檎

第53回コンクール（2007年度）中学校

作者 名木田 恵子
出版社 金の星社
発行 2006年12月
ISBN 978-4323063232

review



まだ十二歳だった少年の事故死によって壊れてしまった家族。母親は力を失い、父親は自分の失敗と責任に苛まれる日々。妹の海歌（みか）は、兄を亡くした失意とともに、両親にとって自分は兄以上の大切な存在ではないことに痛みを感じてしました。そんな渦中に、父親が「保養」を目的に日本を訪れるロシアの少年をホームステイさせることを決めてしまいます。チェルノブイリ原発事故によって両親を失い、未だに放射能に汚染された地域に暮らす少年セリョーシヤ。重い宿命を背負いながらも、人を思いやる心をもった優しい少年は家族を再生させます。通じない言葉を交わしながら、海歌はセリョーシヤに次第に惹かれていく自分を感じます。母親から受け継いだ希望の林檎の種を胸にいだき、暖かい言葉で海歌の日々を思い起こし、過去の扉を彼のようにとす海歌を見守る、胸にせまる物語です。



ぼくたちのリアル

第63回コンクール（2017年度）小学校高学年

作者 戸森しるこ
出版社 講談社
発行 2016年6月
ISBN 978-4062200738

review



隣の家に住む幼なじみの秋山瑞在（リアル）と、五年生になって同じクラスになったアスカは、複雑な気持ちを抱いていました。太陽のように人をひきつける人気者のリアルと、平凡で地味キャラの自分を引き比べて穏やかな気持ちでいられないのです。転校生の川上サジは、女の子のような美しい顔をしたらよっと変わった少年で、リアルのことを気にかかっているようです。サジと親しくなったアスカは、リアルを間にはさんで、たわいもなく楽しい時間を過ごしていきます。アスカだけが気づいているリアルが隠し持っている心の痛み。サジが秘めているリアルへの想い。ライブル意識や、劣等感、憧れと憐憫を抱いて、心の距離をどう測ったら良いかわからず戸惑っている少年たち。その諷も、衝突も、痛みを孕んでいるながら、どこか甘美なものとして描かれる少年時代がここにありま。



星空ロック

第60回コンクール（2014年度）中学校

作者 那須田 淳
出版社 あすなろ書房
発行 2013年11月
ISBN 978-4751522288

review



チエコに単身赴任中の父親を、夏休みに母親と一緒に訪ねる予定が、思わぬアクシデントから一人旅をすることになった中学生のレオ。まずは従姉妹の留学先のベルリンに行き、数日間滞在する予定です。レオが住むアパートの大家さんのケチルは九十歳の高齢ながら、レオとは音楽を通じた友人でした。ベルリンに行くとき、七十年前に留学していた頃の思い出と心残りをレオに打ち明けます。出発前にケチルは病気で亡くなり、その思いを託されたレオは、一枚のSPレコードを持ち、ケチルの留学時代の足跡をたどることになります。ドイツに向かう途上で親しくなった同い年のピアニストの少年ユリアンや、彼の義理の兄妹のリサなど、現地の子どもたちの生活感に触れながら、ベルリンの過去と現在を旅するレオ。クライマックスにレオが立つ音楽フェスのステージには、音楽に満ちたこの物語の喜びの音が響き渡ります。